

# 生きる力

SHINGON

特集

## 宗祖弘法大師

### ご誕生千二百五十年を祝う

慶讃法要に紡がれる総本山智積院の法灯

生きる力 SHINGON

Vol. 114



# 宗祖弘法大師ご誕生千二百五十年を祝う

慶讃法要に紡がれる総本山智積院の法灯



- ①開白法要で開眼された角塔婆には、慶讃年の趣意とともにお大師さまの足跡が書かれています。
- ②大師堂のお大師さまのご尊像は、慶讃年にあわせ特別にご開帳されました。

令和五年は、宗祖弘法大師さまのご誕生されて千二百五十年目の慶讃の年です。この慶讃の年に、お大師さまへの鴻恩に報い、感謝の念を捧げるため、総本山智積院ではさまざまに法要が行われました。

## 慶讃開白法要

令和四年十月五日、時を告げる半鐘の音が鳴り響くと、僧侶が列をなし参道へと進んでいきます。金堂の前に建てられた角塔婆を前に行われたのは「庭儀」といわれる法要です。庭儀とは読んで字のごとく庭にて行われる儀式のことで、色とりどりの幡が参道に並び、法螺貝の音が鳴り響くなか声明が唱えられます。庭儀では、布施浄慧院下を御導師に、集議菩提院結衆という本宗の高僧らによって、参道に建てられた角塔婆の開眼供養が行われました。庭儀をおえると、一行は金堂へと進み、慶讃開白法要が行われました。

この日を始まりとし、全国各地の真言宗智山派の僧侶が総本山智積院へと集い、お大師さまのご誕生を祝う数々の法要が行われました。

## 大曼荼羅供法要

令和五年五月十六日には全国各地の教区長（地区代表者）による大般若転読会が、翌十七

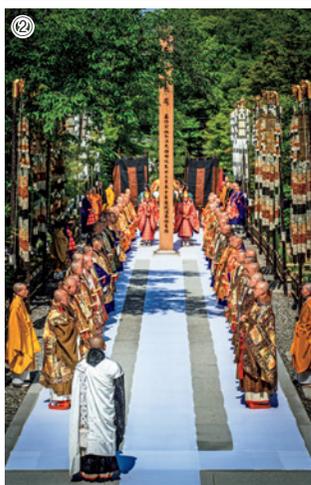
日には、慶讃事業を進めた各委員による二箇法要が、そして、続く十八日には布施院下を御導師に、集善菩提院結衆により大曼荼羅供法要が行われました。

この大曼荼羅供法要では、金堂に掲げられたお大師さまの御影の左右に、曼荼羅が掲げられます。曼荼羅とは仏さまの世界をあらわしたもので、大日如来さまを中心にさまざま

な仏さまが描かれます。大曼荼羅供では、金剛界曼荼羅と胎藏曼荼羅の両部の諸尊へ供養が捧げられました。

## 慶讃結願法要

昨年から続いた宗祖弘法大師ご誕生千二百五十年の慶讃を締めくくる結願法要



①中央にお大師さまの御影を、左右に曼荼羅を掲げ供養を捧げます。

②大曼荼羅供においても庭儀が盛大に行われました。



堂内はお大師さまのご誕生を祝う人々で満たされ、盛大に法要が執り行われました。



布施狛下を輿に戴き慶祝の列は進みゆきます。

青葉まつりが行われる六月十五日は、お大師さまがお生まれになった日とされています。宝亀五年（七七四）にお生まれになったお大師さまは、役人としての出世を捨て、人々の救いのため、僧侶としての道を歩みます。修行のなかで密教の教えの一端に触れたお大師さまは、その深奥な教えを求め唐（現在の中国）へと渡ります。そこで恵果阿闍梨に出会い、密教の正当な後継者となる

は、令和五年六月十五日に行われました。大峰山への入峰修行をした山伏らの先導で、勇壮な法螺と雅楽の調べが織りなすなか、布施狛下をお乗せした輿が金堂へ進んでいきます。この六月十五日は、毎年宗祖弘法大師と中興の祖興教大師の両祖のご誕生をお祝いする青葉まつりが行われており、本年も多くの檀信徒で賑わいを見せていました。金堂では、布施狛下を御導師に慶讃結願法要が行われます。堂内はお大師さまのご誕生を祝う宗内寺院関係者、そして檀信徒の皆さままで満たされ、思いをひとつにお大師さまへの報恩謝徳の念を捧げました。この慶讃結願法要をもって宗祖弘法大師ご誕生千二百五十年を慶讃する法要がすべて盛儀のもと成満いたしました。



山伏により柴燈大護摩供が勤修されました。

のです。唐から戻ったお大師さまは、真言宗を開き人々のために尽くされます。お大師さまの教えは弟子へと伝わり、その教えは途切れることなく今へと伝わっています。法の灯火を受け継ぐ智積院を総本山と仰ぐ真言宗智山派では、この慶讃法要をおしってお大師さまへの報恩謝徳の念を捧げて参りました。慶讃の年はまもなく過ぎ行きますが、法灯とともに受け継がれた、お大師さまの人々を救おうという志は変わることはありません。お大師さまに感謝を捧げるとともに、お大師さまが私たちをお救いくださいという誓いを信じ、これからも変わることなく「南無大師遍照金剛」とお大師さまのご宝号をお唱えいたしましょう。

（智山教化センター所員／中嶋亮順）

# 遍照

## 今日の法語

「遍照」  
へんじょう

佐々木眞光  
（北海道上川郡比布町  
大照寺）

本年は、宗祖弘法大師ご誕生千二百五十年の正当年で、真言宗の寺院ではまたとない慶祝の年があります。遍照とは遍く照らす大日如来さまの徳を表します。密教の教えを根本とする真言宗を開かれたお大師さまは、多くの教えを説かれ「智慧の光」「慈悲の光」として、私たちは今なお大きな恩恵をいただいております。お大師さまの教えを身につけて同行二人のやすらぎを感じ、尊崇と敬慕の念を胸に刻み、幸せと慶びに満ちた人生を歩みたいものです。





## 豊かな緑と滝の郷

駐車場に停めた車を降りると、心地よい自然の薫りと優しく流れる水の音に包まれました。瑞々しい緑が輝く頃、晴天にも恵まれてこの地を訪れることのできたご縁に、自ずと感謝の気持ちが生まれます。今回は、千葉県旭市の名刹、龍福寺を紹介いたします。

千葉県北東部に位置する旭市は、いわゆる平成の大合併の際、(旧)旭市・海上町・飯岡町・干潟町が合併して誕生しました。龍福寺の所在地は当時の海上町に相当し、さらに遡ると昭和二十九年に海上町が誕生するまで、この地は滝郷村と称されてきました。

龍福寺を訪れると、なぜこの地域が滝郷と呼ばれていたかに関心が出てきます。龍福寺を守るように繁る森は東京ドーム三個分(約十三ヘクタール)におよび、昭和五十四年には県の天然記念物に指定され、「龍福寺の森」と呼ばれています。長年、龍福寺への信仰から大切に保護されてきたこの森には、希少性の高い湿性植物が多く自生しています。その命を育むのが、豊かな清流です。森の至るところから水が湧き、大地を潤し、落差



山門から眺める本堂。宝永元年(1704)に建立され、ほとんど当時のまま現存しています。



智山寺院探訪スライドショー

掲載しきれなかった写真や見どころを動画で紹介しています

のあるところでは滝となって流れ落ちていきます。この湧き水が流れる音、滝が生む響きが絶えることなく境内にわたり、参拝者の心に注がれます。目に鮮やかな緑と耳に優しい水音に包まれると、心が洗われるようです。

## 弘法大師開山の古刹

龍福寺は弘仁六年（八一五）三月、弘法大師空海さま（以下、お大師さま）が東歴の際、不動明王像を刻し、開山したと伝えられています。ご本尊の不動明王像は現在では秘仏となっております。五十年に一度、御開帳されるそうです。前回の御開帳は平成十四年であり、今回は今より約三十年後になる予定とのこと。叶うことならば拝見したいと強く思います。

さて、「龍福寺の森」をめぐる参道を進むと、奥の院へとつながる手掘りの洞窟があり、二十メートルほど先の出口から差し込む光に目を凝らすと、中ほどにお大師さまがお祀りされています。この洞窟は「穴禅定」と呼ばれ、戦時中は防空壕として人々を守りました。

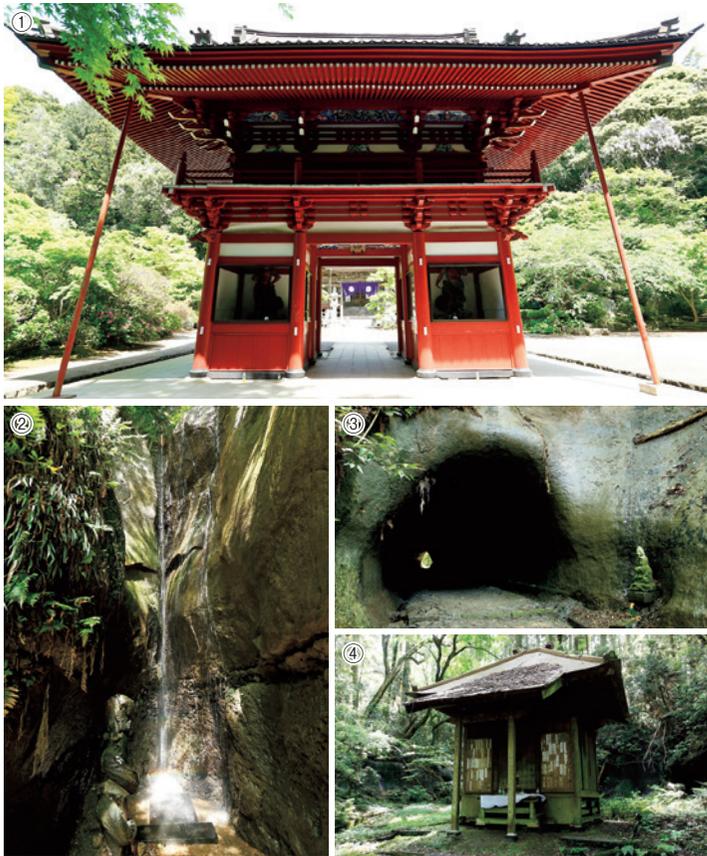
穴禅定を抜けると奥の院があり、緑の道をさらに進むと、湧き水が流れる崖とその中に落差約六メートルの「金剛ノ滝」が現れます。参道を一周して本堂に到ると、その裏には落差約十メートルの「大滝」が倶利伽羅剣

に注いでいます。

このような環境のためか、龍福寺には古くから篤い龍神信仰が根付いているといえます。いつしか自然発生的に芽生えた祈りが、時を超え、人を超え、信仰として受け継がれてゆくあり方に、言葉を超えた神聖さを感じます。理屈ではない、何かありがたい存在を感じさせることこそ、お大師さまの教えが息づいている証左なのかもしれません。

## 祈りと憩いの場として

江戸時代中期になると、九十九里の漁師と江戸商人たちとの商売が盛んになり、多くの人々が日本橋と銚子を行き来するようになりました。その道中の宿場となる場所に龍福寺があったことから多くの信仰を集め、同時に人々の交流の場として栄えていきました。祈りの場、憩いの場として、龍福寺は多くの信仰を受け止め、また癒しと活力をもたらしま



- ①正面から見る仁王門（山門）。享保18年（1733）商人たちの浄財によって建立されました。間近にすると大迫力です！
- ②本堂裏の「大滝」。落差約10メートル。水は倶利伽羅剣の石像に注ぎ、滝の入口には不動明王像が安置されています。
- ③「穴禅定」と呼ばれる手掘りの洞窟。出口から指す光に目を凝らすと、中ほどにお大師さまがお祀りされています。参道から抜けると奥の院へと到ります。
- ④奥の院。穴禅定を抜けた先にあります。お大師さまが安置されています。

した。当時は多数の講社が作られ、仏像や図  
 絵の不動明王を背負って参拝される方も多  
 かったそうです。かつて人々が仏さまを運ん  
 だ笈おびは、今でも本堂に残されています。



- ⑤ お大師さまの刻した不動明王を守る本堂。宝永元年（1704）に建立され、ほとんど当時の姿のまま現存しています。
- ⑥ ご本尊さまを守る御厨子。須弥壇、前机とともに天明2年（1782）に造られ、市の有形文化財に指定されています。
- ⑦ 御厨子は立体曼荼羅として、正面と四隅を五大明王が守護しています。
- ⑧ 龍福寺第三十九世の土川峰弘ひじかわほうこうご住職ほうせんと峰仙長老。

## 元禄文化の流れを汲む荘厳な伽藍

緑に囲まれた参道から、美しい朱色が映える仁王門（山門）が目に入ります。享保十八年（一七三三）商人たちの浄財によって建立

され、基礎となる地産の飯岡石は、地の漁師たちが運び入れたそうです。厳かで迫力のある山門の先には、遠目からでもその佇まいに圧倒されるような本堂があります。宝永元年（一七〇四）に建立された木造の本堂は、ほとんど当時の姿のまま現存しています。

趣がある本堂の中、眩いほどに輝く御厨子は宝形八角宮殿造となっており、その一面一面には余すところなく細かで丁寧な彫刻がなされています。八角八面の上部には無数の龍があり、その迫力と美しさには息を飲みます。この御厨子を守るように、須弥壇の正面と四隅には五大明王がいらっしゃいます。さらに、御前立の両脇に制多迦童子せいたかどうじ、矜羯羅童子こんがら、御厨子の背面は両祖大師がお祀りされています。この御厨子と須弥壇、前机は天明二年（一七八二）に制作され、昭和四十六年十月に市の有形文化財に指定されています。

## 変わらぬ信仰の拠り所として

龍福寺を参拝する人々も、時代によって変わります。地元の漁師や農家、行き交う商人たち、御朱印ブームもありました。そして今は何の御縁あつてか、タイ人にとっての聖地とされ、時には日本人より多くのタイ人がお参りにくるそうです。

ご住職ひじかわほうこうの土川峰弘は、「多くの参拝者が本当に熱心に手を合わせておられます。どんな人が、何を思って祈るのか。時代や人が変わっても、信仰は絶えません。きつとそれは、お不動さまがどんな祈りも受け止めてくれているということだと思います」そして、「これから先も、先人たちが築き紡いだ龍福



### ACCESS アクセス

仙瀧山 龍生院 龍福寺

〒289-2602 千葉県旭市岩井120

自動車：銚子連絡道路横芝光ICより約40分

電車：JR総武本線飯岡駅より車で約10分

## 目次

特集 宗祖弘法大師ご誕生千二百五十年を祝う	2
今日の法語 (佐々木眞光)	5
智山寺院探訪 仙瀧山龍生院龍福寺	6
お大師さまとご信仰 (田村宗英)	10
梵字よもやま話 (小峰智行)	11
智積院の修行生活 (漫画・長谷川優)	12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう (平川真海)	14
日本の四季を切り取る十七文字 (星野高士)	15
総本山の便り	16
ニンゲンのつくり方 (中嶋亮順)	18
ごくららくご (三遊亭竜楽)	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言宗智山派出版物のご案内	23
寺院建築の心 (菊池恭二)	24
十巻章—真言宗の教えを紐解く— (駒井信勝)	26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる (渡邊淳司)	28
花に聞く 仏に聞く (佐々木隆元)	29
私のお大師さま ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko (内藤理恵子)	30
十善戒と生きる力 (佐竹隆信)	31

寺を、しっかりと守っていきたい」とお話しされました。

今回の訪問は緑盛りの春でしたが、春夏秋冬それぞれに美しい表情を見せてくれます。いつでも参拝者の心を潤してくれるお寺ですので、機会がありましたら、ぜひご参拝ください。

(智山教化センター所員／平野隆光  
撮影／清水健)



弘法大師 空海  
ご誕生 1250年

令和5年(2023年)

宗祖弘法大師ご誕生1250年ロゴマーク

表紙

錦秋の溪谷を走る汽車  
福島県



穏やかな秋の日、鉄道写真愛好家に人気の撮影地「第一只見川橋梁ビュースポット」を訪れた。すでに沢山の人が三脚を構え、汽車の到着を待っている。近くから汽笛が聞こえると和やかな空気は一変、ピンと張りつめた。

P5

コスモス畑を散歩  
埼玉県



広大なコスモス畑で、ああでもないこうでもない撮影をしていると、無邪気な笑い声が聞こえてきた。見れば、花と同じピンクと白の帽子たちがピョコピョコと動いている。微笑ましい光景に思わずシャッターを切った。

撮影・解説／竹本りか

# 「総本山智積院展示収蔵庫 宝物館がオープンしました」

長谷川等伯一門による「楓図」「桜図」をはじめとした国宝障壁画群を、適切なライティングにより彩り豊かに展示するとともに、「松に立葵図」が収められていた当時の大書院の様子を再現した展示も行います。

さらに、これまで非公開であった智積院が有する約八万点の収蔵品(宝物や高僧の著作などの貴重な古文書)を、季節に合わせ順次公開していきます。皆さまのご来館をお待ちしております。



拝観料	一般…………… 500円 中学生…………… 300円 小学生…………… 200円 (小学生未満無料)
拝観時間	9:00~16:30 (最終受付16:00)

## 【お問い合わせ】

真言宗智山派教化部展示収蔵課

TEL 075-532-5655

FAX 075-532-5656

智積院宝物館 [検索](#)



## 京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964

TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

### 写経のついで

毎月21日 13時より

於 智積院金堂地下ホール

(納経料千円・要事前申込定員50名)

### 智積院阿字観会

毎月12日

14時より(受付13時30分より)

※8月と12月は8日

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・

要事前申込定員20名)

### 宿坊 智積院会館

一泊朝食付きプラン

9,000円から

(宿泊税・消費税込)

夕食別途3,300円から(消費税込)

ご予約・お問い合わせ

TEL 075-541-5363

・JR京都駅よりバス約10分

・京阪電車七条駅より徒歩約10分

※ご予約は、6ヶ月前の1日より開始いたします。令和5年8月

現在、令和6年2月までのご予約を受け付けております。

現在、令和6年2月までのご予約を受け付けております。

## 東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8

TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

### 愛宕薬師ご縁日(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日

・大護摩供法要 12時より

・写経会(納経料千円) 14時より

9月8日(金)

10月6日(金)

11月8日(水)

### やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭 千円)

9月21日 談志一門会

10月19日 三遊亭

11月16日 談志一門会

### 真福寺阿字観会

15時より

於 本堂(無料・要事前申込・定員30名)

9月26日(火)

10月24日(火)

11月28日(火)

Instagram



Facebook



総本山智積院 宿坊智積院会館

総本山智積院